



# おにぎり通信

2022年6月25日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷、銀座、日比谷、秋葉原、日本橋、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

食中毒は、この時期ぐらいから増える印象がありますが、実は冬の方が多いです。カンピロバクター・ノロウイルス・ウェルシュ菌が食中毒の三大原因で、カキに代表されるノロウイルスによる食中毒が、圧倒的に冬に多いためです。鶏肉に多いカンピロバクターによる食中毒は、季節による違いはあまりありません。

今の時期に気を付けないといけないのは、肉や魚に付いていることの多いウェルシュ菌で、寒さを嫌うため、気温が上がると増えてきます。熱を加えても死なず、空気を嫌うため、肉や魚が空気に触れずに閉じ込められるカレーやシチューといったの煮込み料理は、ウェルシュ菌が増えやすく、放っておいたりするのは要注意です。

福祉行動を希望の方は、

おにぎりを配る時に、お声がけください。

病院や生活相談等で、福祉事務所に行くことを希望される方は、おにぎりをお渡しに伺った際に声がけ下さい。毎週土曜日の訪問活動の時に声がけ頂いた場合、翌週以降に福祉事務所まで同行します。

中央区福祉事務所・中央区築地1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階



おにぎりを包むラップや読み終わった通信は、放置せずゴミ箱へ



おにぎりは、お1人1個で、その日のうちに召し上り下さい



四ツ谷おにぎり仲間 千代田区麹町6-5-1 聖イグナチオ教会  
連絡先 080-7967-8672 (連絡可能時間 毎週土曜日午後3時~6時)

おにへい にんそくよせば  
【鬼平と人足寄場】

え ど じ だ い つ く にんそくよせば と う じ こ せ き しゅうもん にんべつ あらため  
江戸時代に作られた「人足寄場」は、当時の戸籍「宗門人別改  
ちょう はす むしゆく しゃかい ふっき しせつ え ど  
帳」から外れた「無宿」が社会に復帰するための施設でした。江戸  
ばくふ ろうじゅう まつだいらさだのぶ かんが おにへい はせがわへいそう つくだじま  
幕府の老中・松平定信が考え、「鬼平」長谷川平蔵が、佃島と  
いしかわじま なかす う た つく ころ え ど てんめい  
石川島の中州を埋め立てて作りました。その頃の江戸は、「天明の  
だいききん た な ちほう おお ひと お よ  
大飢饉」で食べるものが無くなった地方から多くの人が押し寄せて  
むしゆく ふ ばくふ あたま なや  
無宿が増えており、幕府は頭を悩ませていました。

ひとあしよせば かんが た まつだいらさだのぶ え ど じ だ い だ い み ょ う あば  
人足寄場を考え出した松平定信は、江戸時代の大名で、「暴れん  
ほうしょうぐん とくがわよしむね まご てんめい だいききん お と き  
坊将軍」徳川吉宗の孫にあたります。天明の大飢饉が起こった時に  
さだのぶ しらかわはん う じ ひとり で  
定信のいた白河藩は、飢え死にが1人も出なかったといわれており、  
しゅわん か ろうじゅう ばくふ せいじ にな  
その手腕を買われて老中となり、幕府の政治を担いました。

むしゆく おお もんだい しごと つ  
無宿にとっての大きな問題は、まともな仕事に就けないことです。  
ひとあしよせば むしゆく しゃかいふっき む しょくぎょうくんれん しせつ  
人足寄場は、無宿が社会復帰に向けた職業訓練をする施設でした。  
しごと て しょく しごと え ちんぎん つ た  
仕事をして手に職をつけるとともに、その仕事で得た賃金を積み立  
きんがく よせば で しごと つ しく  
て、金額がまとまると寄場を出て仕事に就く仕組みになっていました。  
よせば で ふたた こせき つ  
そして、寄場を出るときには、再び戸籍が付けられます。

にんそくよせば じつげん ちから つ はせがわへいそう しょうせつ  
人足寄場の実現に力を尽くしたのが、長谷川平蔵です。小説や  
てれび おにへいはんかちょう ゆうめい はせがわへいそう ひつけとうそくあらため  
TVドラマの「鬼平犯科帳」で有名な長谷川平蔵は、「火付盗賊改」  
え ど ほうか ごうとう と し やくめ にんそくよせば  
という江戸の放火や強盗を取り締まる役目にありましたが、人足寄場  
けんせつ て あ なか じっさい ゆうめい  
の建設にも手を挙げます。ドラマの中だけではなく、実際に、有名な  
とうそく め と かつやく え ど しょみん ほんじよ へいそうさま げんだい  
盗賊を召し捕るなど活躍し、江戸の庶民から「本所の平蔵様」「現代  
おおおかえちぜんさま よ にんき へいそう めいもん  
の大岡越前様」と呼ばれ、とても人気がありました。平蔵は、名門の  
う したまちそだ わか ころ あそ す まわ みち おお じんせい  
生まれながら下町育ちで、若い頃は遊びが過ぎ、回り道の多い人生で  
した。だからこそ、様々な理由で無宿となった人々への理解が深く、  
ひと しせつ うま つく あ まつ  
その人たちのための施設を上手く作り上げることができました。松  
だいらさだのぶ いぜん まちまち はし むしゆく さゆう つら いま  
平定信は、「以前は、町々の橋には無宿が左右に連なっていたが、今  
へいそう てがら か のこ  
はそれがない。平蔵の手柄によるものだ。」と書き残しています。